季節を知ったら暮らしが楽しくなった

～第四七八号～

立冬（りっとう）　十一月七日

中村左洲

十一月。早くも暦の上では冬が始まるとされる「立冬」を迎えます。「冬に入る」「冬来たる」「今朝の冬」という季語がありますが、冬の始まりを俳句にはこのように詠まれています。

けさの冬よき毛衣を得たりけり　蕪村

立冬のあとの青空松葉降る　阿部みどり女

江戸時代の与謝蕪村（よさぶそん）は、毛衣（けごろも）（毛皮など）を入手できたと詠み、明治から昭和にかけて活躍したみどり女は自然界の青空や松葉の降る様子に着目しています。時代によっても立冬の迎え方が異なるようです。

今、伊勢市歴史博物館では、企画展「中村左洲（なかむらさしゅう）展～賓日（ひんじつ）館の至宝」が開かれています。伊勢では「左洲さん」と親しみを込めて呼ばれていますが、左洲は明治の初め、現在の伊勢市二見町今一色（いまいっしき）の漁師の家に生まれました。幼い頃から魚をはじめ、鳥や草花など身の回りの自然や生き物を写生してきました。そして、十八歳の時に内宮前に住む画家、磯部百鱗（ひゃくりん）のもとで日本画を学びます。明治三十八年の第四回内国勧業博覧会には「製塩図」を出品し、受賞するなどして、日本画家として成功していきます。皇族に作品を献上する機会にも恵まれました。

今回の企画展はかつてお伊勢参りのＶＩＰが滞在した二見町の賓日館に伝わる作品が見どころ。鮮やかに富士山を描き込んだ六曲一双の屏風「大名行列図」は圧巻です。また、左洲がデザインした浜千鳥の模様が施された火鉢、犬の絵が描かれた年賀用はがき、画帖も展示されています。

もちろん、「鯛の左洲」といわれた写実的な鯛の軸画もたっぷり楽しめます。

この企画展は十一月二十三日まで開催されています。

文　千種清美

伊勢内宮前
おかげ横丁

おかげの里便り

おかげ横丁

奉祝新嘗祭 第六回神恩感謝 伊勢新酒祭

11月23日（月・祝）、神宮では今年の五穀豊穣を神様に感謝する「新嘗祭」が執り行われます。おかげ横丁では、五穀豊穣に感謝して新酒を伊勢神宮へ奉納し、皆様にご披露する”直会（なおらい）の宴”として「伊勢新酒祭」を開催いたします。三重県を代表する27蔵と、全国から集まった53蔵の日本酒を一堂に飲み比べしていただけます。今年の豊かな実りと旨みが詰まった新酒を、伊勢の地で心ゆくまでお楽しみください。

※諸事情により一部変更もしくは中止する場合があります。

日　時／11月23日(月・祝)　15：00 ～ 18：00

場　所／おかげ横丁一帯

入場券／【お愉しみチケット】 前売券：4,000円（ 当日券：5,000円 ）

※15:00 ～ご利用いただけます。

※10枚綴りで1枚につき日本酒1杯又は、500円分の料理やテイクアウトメニューに使えます。

【飲み比べ券】　前売券：6,500円（ 当日券：7,500円 ）

※3時間（15：00～18：00）飲み比べにブースにてお酒を飲み比べいただけます。

【当日スケジュール】

13：00～　横丁棋院で受付

15：00～　日本酒の提供【飲み比べブース】

神恩太鼓演奏【太鼓櫓】

蔵元紹介、開宴の挨拶、鏡開き【太鼓櫓】

15：30～　Miss SAKE PR【太鼓櫓】

灯りのまつり　提灯点灯（夕暮れ時～20：00）

16：00～　利き酒大会

17：00～ 神恩太鼓演奏【太鼓櫓】

18：00～　終宴

18：00～　シャトルバス（すし久前→五十鈴川駅）

※18：00～20：00頃の間、五十鈴川駅までシャトルバスを運行します。（ 場所：すし久前）

お問い合わせ／おかげ横丁エンタメ部　0596-23-8827（10：00～17：00）

五十鈴塾

「遷宮フォーラム」～御遷宮と伊勢の人々～

恒例の遷宮フォーラム、今回は御遷宮に伊勢の人々がどう関わってきたのかなどを出席の先生方と共に考えます。神宮と伊勢は切っても切れない関係、もともとは神宮があるから形作られた町なのです。御師が活躍した時代、伊勢人は押し寄せる参宮客を相手に商売を発展させてきました。まさに「神さんのおかげ」だったのです。それ故に御遷宮となると町を挙げての協力体制を組んで奉仕し、その最たるものがお木曳です。伊勢人にとっての２０年に一度の最大イベントお木曳を例に今後の在り方などを探ってみたいと思います。

日　時／11月17日(火)　17：20 ～ 20：00

講　師／櫻井治男（皇學館大学特別教授）・音羽悟(神宮司庁広報室次長)・山中一孝（豆腐庵山中代表取締役）・増田研一郎(伊勢市役所文化政策課課長)

参加費／一般 6,500円　会員 6,000円（すし久の食事付き）

受付場所／五十鈴塾　　会場／オカゲ屋敷(おかげ横丁内)

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話 0596-20-8251

五十鈴茶屋

五十鈴茶屋節気菓子

栗かのこ

晩秋から初冬へと季節は移ろい、伊勢路の空に浮かぶのは明るく美しい月の姿です。大納言小豆に栗を置き、澄んだ秋の夜を表現しました。

うずら餅

冬の足音が近づくと、野生の鶉が伊勢の里に姿を見せます。栗と粒餡を求肥で包み、愛らしい鶉の姿に仕上げました。

紅葉

神路・島路の山々にも紅葉の時季が訪れ、山のふところには所々に鮮やかな赤みが見られます。二色のきんとんで山々の秋を彩りました。